

社会経済動向	市の強みやプラス要素	市の弱みやマイナス要素
<p>A) 人口減少と少子高齢化 ・税収の減、社会保障関連費用の増、2025年問題</p> <p>B) 地方創生 ・東京一極集中の是正、若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、地域特性に即した地域課題の解決</p> <p>C) 持続可能な開発目標（SDGs） ・経済、社会、環境の統合的向上</p> <p>D) 景気の動向 ・日本経済は緩やかな回復傾向、消費税増税による個人消費への影響の懸念</p> <p>E) 雇用形態や就労形態の変化 ・非正規雇用の増加、女性や高齢者の労働参加、外国人労働者の増加、働き方改革</p> <p>F) 観光立国の実現 ・外国人旅行者の増加、2020年東京オリンピック、2021年ワールドマスターズゲーム、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）</p> <p>G) 自然災害の多発 ・国土強靱化、地震災害、豪雨災害、自助の重要性</p> <p>H) 環境保全 ・地球環境負荷の増大</p> <p>I) 犯罪被害等 ・特殊詐欺被害の発生、テロ事件、核兵器開発、原子力発電所事故への懸念</p> <p>J) 公共施設の老朽化 ・今後大量に迎える更新時期</p> <p>K) ICT（情報通信技術）の普及・発展 ・オープンデータ・ビッグデータの利活用、AI、RPA</p> <p>L) 価値観やライフスタイルの変化 ・ワーク・ライフ・バランス、シニア世代の自己実現、LGBT、在日外国人との共生、共働き世帯の増加</p> <p>M) 地域社会のつながりの希薄化 ・核家族化、非婚化、コミュニケーションの希薄化、プライバシー保護の厳格化、人と人との関係の希薄化、孤立する人の増加、自治会加入率の低下</p>	<p><u>人口・世帯等</u> A) 社会増を維持。10歳未満と30歳代で特に転入超過が多い</p> <p><u>これからの都市経営</u> B) NPO法人数、地域やNPO等との協働事業数は増加傾向 C) 市政の情報提供、広報に対する評価は高い D) 公共施設等の予約オンライン利用率は全国平均以上 E) 人口一人あたり個人市民税が高い</p> <p><u>安全・都市基盤</u> F) 住み続ける理由上位「交通の利便性が良い」「住環境が良い」「治安が良い」 G) 他都市より優れていること上位「緑や花があふれている」「優れた居住環境」「公共交通機関が発達」 H) 自主防災組織の結成率は高止まり、活動率は増加傾向 I) 災害に対する備えの状況、避難所や危険箇所の認知度は増加傾向 J) 人口あたりの刑法犯認知件数は少ない K) 人口あたりの人身事故発生件数は少ない L) 持ち家世帯比率は高い M) 一住宅あたり延べ床面積は大きい</p> <p><u>健康・福祉</u> N) 地域における常設の居場所数は増加傾向 O) 健康診査の受診率は高い P) 三大死因による死亡率は全国・兵庫県平均よりも低い Q) 特別養護老人ホームの人口あたりの定員は多い</p> <p><u>教育・子ども・人権</u> R) 審議会等委員における女性の参画率は増加傾向 S) 私立の保育所数・入所児童数は増加傾向 T) 一時預かり保育実施か所数は増加傾向 U) 学校図書館の一人あたりの年間貸出冊数は増加傾向 V) スポーツ系施設の利用は増加傾向</p> <p><u>環境</u> W) 人口一人1日あたり資源物以外のごみ排出量、リサイクル率は比較的高い X) 市のごみ減量化に対する評価は高い</p> <p><u>観光・文化・産業</u> Y) 阪神北地域内にある主要観光地の多くが宝塚市に立地、外国人観光客は増加傾向 Z) 文化施設の利用は増加傾向</p>	<p><u>人口・世帯等</u> A) 人口が減少期に突入（生産年齢人口が減少） B) 少子化の進行が大きい C) 昼間人口は夜間人口より少ない D) 高齢者の単独世帯、高齢夫婦世帯は増加傾向</p> <p><u>これからの都市経営</u> E) 西谷や一部の山手地域の人口は減少傾向で高齢化が進行 F) コミュニティ施設の稼働率は低いところで4～5% G) 自治会加入率は減少傾向 H) 行政との協働の取組意向の伸び悩み I) 経常収支比率90%台後半で推移（財政のゆとりが少ない） J) 人口一人あたりの法人市民税が少ない K) 義務的経費の扶助費は増加傾向 L) 基金残高は減少傾向 M) 公共施設更新等費用の増加</p> <p><u>安全・都市基盤</u> N) 市外転出の理由上位「交通の利便性が良くない」「買い物や余暇活動に不便」「通勤通学に不便」 O) 空き家は増加傾向 P) 市道舗装率が低い Q) 市の「道路・交通」施策に対する満足度は低い</p> <p><u>健康・福祉</u> R) 登録ボランティア団体数は減少傾向 S) 人口あたりの病床数、医師数は少ない T) 人口あたりの介護老人保健施設の定員は少ない</p> <p><u>教育・子ども・人権</u> U) 「地域による子どもの育成」が取り組まれていると回答した人の割合は低下 V) 待機児童の数が多 W) 公私立の幼稚園・小中学校の園児・児童・生徒数は減少傾向であり、一部の公立幼稚園・小中学校では小規模化が進行</p> <p><u>観光・文化・産業</u> X) 農家戸数は減少、耕作放棄地は増加 Y) 人口あたりの小売業年間商品販売額は低い Z) 「趣味性・ファッション性が高い品や高級品などの購入場所は市内が18.5%で市外が多い AA) 市の商業振興の取組に対する評価は低い BB) 市内従業割合は低い</p>